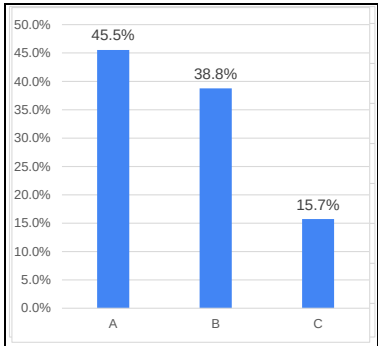
R5 運動部活動の運営と休日の地域移行に関する意識調査結果（国頭地区）
『 部活動に加入している生徒・保護者アンケート 』

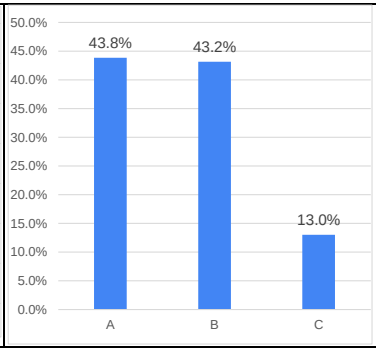
生 徒：n 369　　保護者：n 146

【質問1】（生徒と保護者への質問項目）
あなたの（お子様の）学年を教えてください。

生徒



保護者

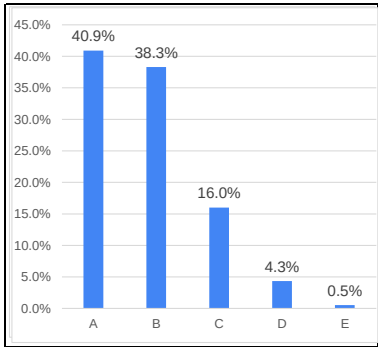


回答項目
A １学年
B ２学年
C ３学年

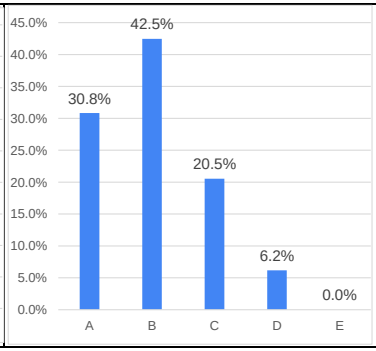
【結果と考察】
〇部活動に加入している369人の生徒と、146人の保護者、合計515人から回答をいただいた。多くの回答を得ることができた貴重なアンケートとなった。
〇3学年の生徒と保護者の回答率が低くなったのは、中学校夏季総体が終了している11月にアンケートを実施したためだと考えられる。

【質問2】（生徒と保護者への質問項目）
あなたは、今の部活動に満足していますか？ または お子様の様子をみて、今の部活動に満足していると思いますか？

生徒



保護者

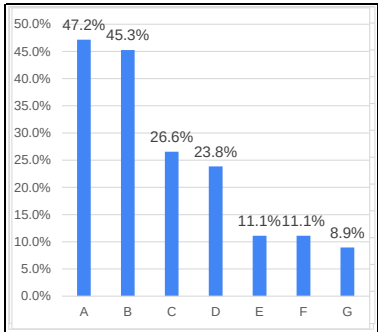


回答項目
A とても満足している
B やや満足している
C 少し不満がある
D とても不満がある
E 無回答

【結果と考察】
〇多くの生徒・保護者が「A とても満足・B やや満足」と回答しているが、「C 少し不満・D とても不満」と回答している生徒が20．3%、保護者の26．7%が今の部活動に対して何らかの不満があると感じている事がわかる。
何らかの不満がある生徒や保護者にも目を向け、課題を解決していく取り組みも必要であると考える。

【質問3】（生徒への質問項目）
その部活動に入った理由や目的を教えてください。　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

生徒

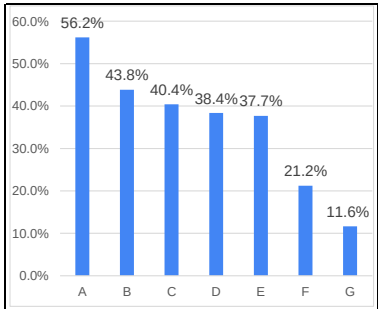


回答項目
A 仲の良い友達と一緒に活動したいから
B 技術や体力の向上をしたいから
C 大会やコンクールで良い成績を収めたいから
D 目標に向かって、やり抜く力を身に付けたいから
E 新しい友達をつくりたいから
F 高校の進学に有利だと思うから
G 他にやりたいことがないから

【結果と考察】
〇半数近くが「A仲の良い友達と一緒」「B技術や体力の向上」と答えており、人間関係や興味のある競技の選択を重要視していると考えられる。他には「礼儀やマナーを身に付けたい」「先生・先輩・家族の勧め」「小学生の時からやっていたから」という意見も散見された。

【質問4】（保護者への質問項目）
お子様の様子をみて、今の部活動で良いところ、満足していると思われるところを教えてください。　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

保護者

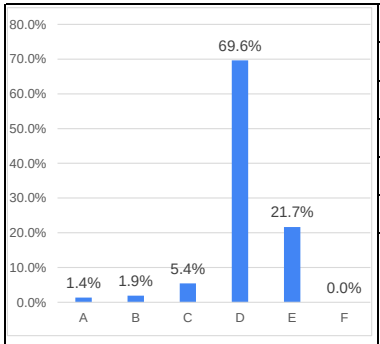


回答項目
A 仲の良い友達と一緒に活動できること
B 技術や体力の向上ができること
C 放課後を健全に過ごせること
D 新しい友達（先輩・後輩等）をつくれたこと
E 目標に向かってやり抜く力が身に付くこと
F 練習を楽しめること
G 勉強との両立ができること

【結果と考察】
〇「A 仲の良い友達と一緒に活動できること」「B 技術や体力の向上」が多く、生徒と共通している。人間関係を育む力と個の能力の育成が満足につながっていると考えられる。「C 放課後を健全に過ごせる」「D 新しい友達」といった部活動における保護者の思いに応えられている部分もみえる。

【質問5】（生徒への質問項目）
部活動をしている平日の日数を教えてください。

生徒

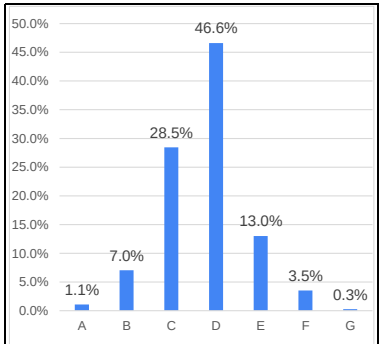


回答項目
A １日
B ２日
C ３日
D ４日
E ５日
F 無回答

【結果と考察】
〇78．3%の生徒が平日の活動日数に対して、週１～4日の活動日であると回答しており、教職員・指導者と共通している。
「E 週5日」と回答しているところは、本県や各学校が示す部活動方針の確認を行い、ベクトルを合わせた活動につながる取り組みが必要であると考える。

【質問6】（生徒への質問項目）
平日１日あたりの平均的な部活動の時間を教えてください。

生徒

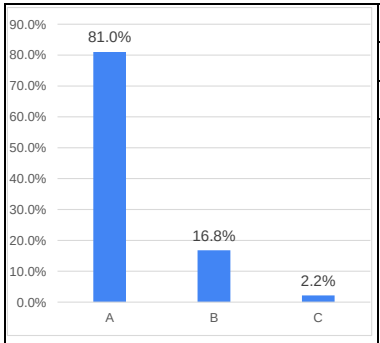


回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
E 2時間30分程度
F 3時間以上
G 無回答

【結果と考察】
〇平日の活動時間については、2時間程度内での活動と回答した割合が最も高い。
「F 3時間以上」と回答しているところは、本県や各学校が示す部活動方針の確認を行い、ベクトルを合わせた活動につながる取り組みが必要であると考える。

【質問7】（生徒への質問項目）
土日に部活動を行っている、活動日数を教えてください。

生徒

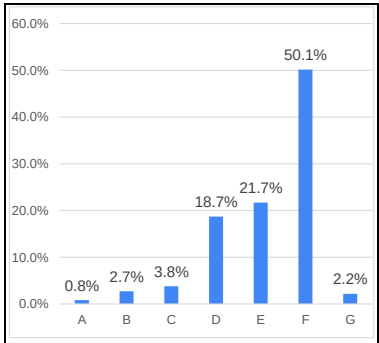


回答項目
A １日
B ２日
C 無回答

【結果と考察】
〇81%が週末の活動日数は１日であると回答しているが、土日の2日間活動していると回答した割合が16．8%ある。休日の部活動休養日について、生徒・指導者との確認が必要である。（教職員・指導者アンケートで、2日間実施の回答率は0%である。）

【質問7】（生徒への質問項目）
休日１日あたりの平均的な部活動の時間を教えてください。

生徒

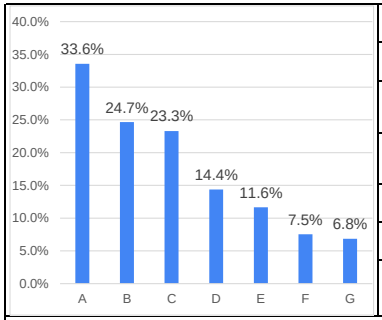


回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
E 2時間30分程度
F 3時間以上
G 無回答

【結果と考察】
〇休日１日あたりの平均的な活動時間については、50．1%が「F 3時間以上」と回答している。平日の活動日数・活動時間と同様に本県と学校の方針との確認が必要かと思われる。

【質問9】（保護者への質問項目）
お子様の様子をみて、今の部活動の課題や不満と思われるところを教えてください。　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

保護者

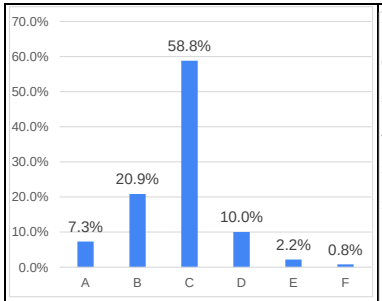


回答項目
A 課題や不満はない
B 部員数が少ない
C 技術や体力の向上が実感できない（専門的な指導をしてほしい）
D 友達や先輩、後輩との関係やチームワーク
E 勉強との両立が難しい
F 練習がつまらない
G 試合に十分に出場できない・させてくれない

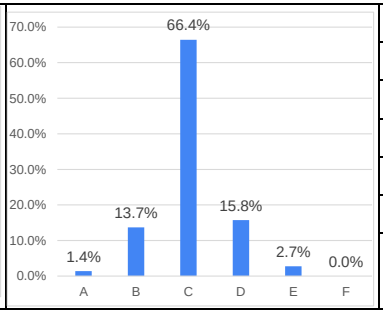
【結果と考察】
〇「A 課題や不満はない」が最も多いが、「B 部員数が少ない」「C 技術や体力の向上」に対する課題については教職員と共通する部分である。また、一部に「D チームワーク」への課題も教職員・指導者と共通している。他には「顧問・コーチに対する不満」も散見された。

【質問10】（生徒と保護者への質問項目）
学習や趣味、家族や友人との時間を含めて、心身ともに健康でバランスの取れた生活を送っていくために、現在の活動量（時間や日数）は適切だと思いますか？

生徒



保護者

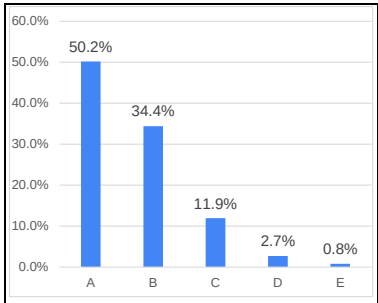


回答項目
A 多すぎる
B やや多い
C 適切
D やや少ない
E 少なすぎる
F 無回答

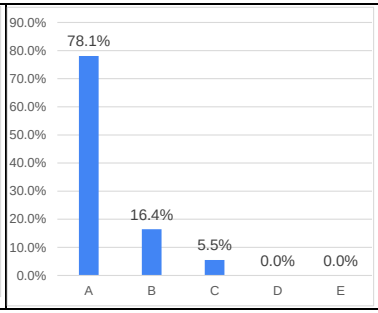
【結果と考察】
〇58.5%の生徒と66.4%の保護者が「C 適切」と回答している。また、「A 多すぎる」「B やや多い」と回答した生徒が28.2%、保護者で15.1%となっている。教職員・生徒・保護者でこの結果を共有したうえで、今後の活動量について調整をしていく必要があるのではないかという見方もある。

【質問11】（生徒と保護者への質問項目）
練習のし過ぎは心身の不調やケガなどの原因になること（心身の不調やケガなどを防ぐために、休養をとることが大事なことを）知っていますか？

生徒



保護者

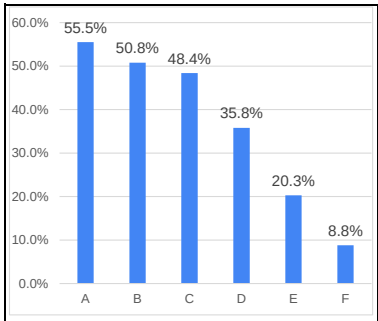


回答項目
A よく知っている
B やや知っている
C あまり知らない
D 全く知らない
E 無回答

【結果と考察】
〇生徒の14.6%、保護者の5.5%は、練習のし過ぎによるデメリットと休養の大切さについて理解が薄いことが分かる。教職員と指導者のアンケートでも、「A 積極的に教えている」という回答率が教職員においては半数を満たない状況と、指導者においては7割を満たない状況も大きく影響していると考えられる。今後も共有を図りながら周知していくことが重要であると考える。

【質問12】（生徒への質問項目）
どんな運動部活動なら、より満足できるものになると思いますか。　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位6項目

生徒

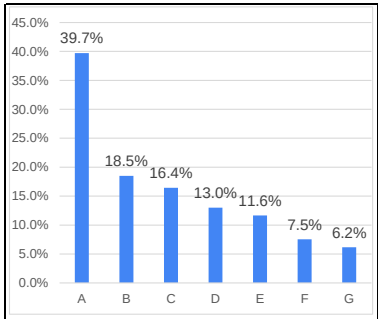


回答項目
A 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
B より勝利を目指す活動にする
C 専門的で丁寧な指導を受けられる
D 勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
E 活動内容などを生徒同士で決められる
F 一種目だけではなく複数の活動に参加できる

【結果と考察】
〇「A 専門的で丁寧な指導を受けられる」「B 健康状況を配慮しながら指導してもらえる」の回答率で半数を超えている。
48.4%の生徒が「C より勝利を目指す活動」と回答しており、スポーツをするにあたり「勝利する」ことも大きなモチベーションの一つになっていることが伺える。
半面、「D 勝敗にこだわらず気軽に楽しめる」ことも重視している生徒も35.8%いることが分かった。

【質問13】（保護者への質問項目）
部活動に関して、保護者の皆さんが負担だと感じることはありますか？　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

保護者

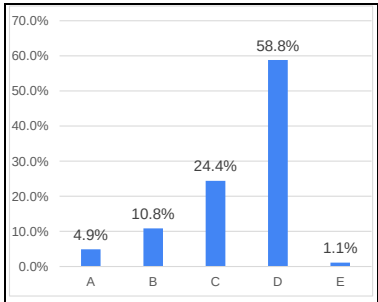


回答項目
A 練習や試合への送迎
B 活動費用の金銭的負担
C 教員や指導者、保護者同士の人間関係
D 大会などの運営協力
E 教員や指導者との情報共有・連絡
F 特になし
G 合宿や遠征の帯同・休日の弁当準備

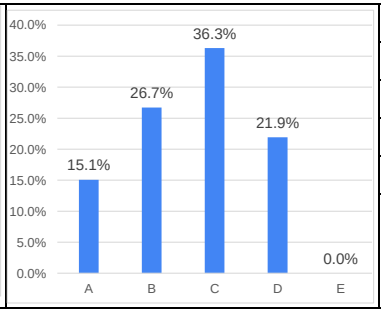
【結果と考察】
〇「A 練習や試合の送迎」が39．7%と最も多い。また「B 金銭的負担」は思ったよりも出費がかかったという所かと思われる。「C 教員・指導者・保護者同士の人間関係」「E 情報共有・連絡」も負担だという回答もみられる。

【質問14】（生徒と保護者への質問項目）
現在、スポーツ庁・文化庁では、休日（土日、祝日）の部活動の地域移行を令和7年度末までに推進しています。その内容について聞いたことがありますか？

生徒



保護者

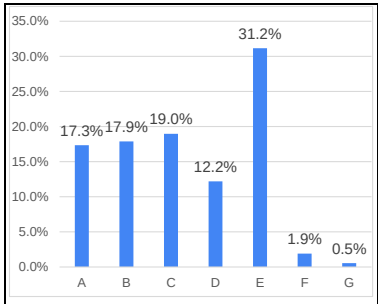


回答項目
A 内容もよく知っている
B 内容はやや知っている
C あまり知らない
D 全く知らない
E 無回答

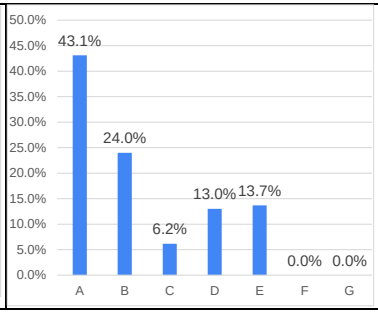
【結果と考察】
〇83．2%の生徒は、「休日の地域部活動移行」の内容について知らないと回答し、58．2%の保護者についても「休日の地域部活動移行」の内容について知らないと回答した。部活動の地域移行という言葉は聞いているが、その概要についてよくわからないというところからの回答だと思われる。昨年度よりも、県内における説明会やメディアを通して発信する機会はかなり増えたものの、生徒や保護者まで伝わっていない現状が分かる。
今後も、県・市町村教育委員会、学校、中体連ともに、「休日の地域部活動移行」の内容について周知していく必要性があると考える。

【質問15】（生徒と保護者への質問項目）
休日の地域クラブ活動がスタートしたら、その活動に参加したいと思いますか？ または お子様は参加すると思いますか？

生徒



保護者

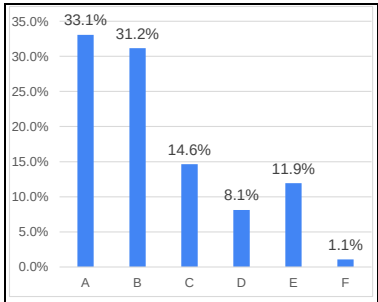


回答項目
A 参加したいと思う
B やや参加したいと思う
C やや思わない
D 全く思わない
E 分からない
F その他
G 無回答

【結果と考察】
〇35.2%の生徒が「AB 参加したいと思う」と回答したのに対し、67.1%の保護者が「AB 参加すると思う」と回答した。保護者の数値が高くなっているのは、地域での専門的な指導や生徒の居場所作りに対する期待が表れていると考えられる。
生徒の31.2%が「E 分からない」と回答し、最も高い割合となったのは、地域クラブがどのような形で活動するのかというイメージが見えてないことが大きいのではないかと思われる。

【質問16】（生徒への質問項目）
同じ地域で、別の学校の生徒と一緒にスポーツ活動をしてみたいと思いますか？

生徒

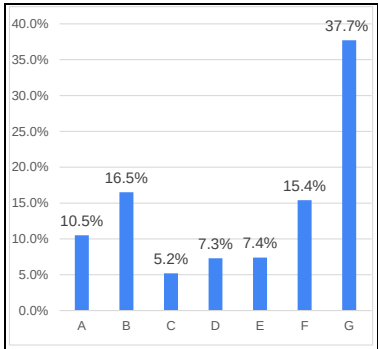


回答項目
A ぜひ、やってみたいと思う
B やや、やってみたいと思う
C あまりやってみたいと思わない
D 全くやってみたいと思わない
E 分からない
F 無回答

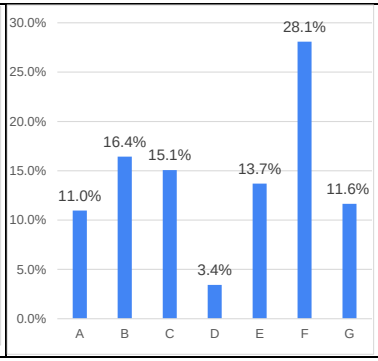
【結果と考察】
〇64.3%の生徒が「A やってみたい・B ややってみたい」と回答している。全体的に部員数が少ないことと、普段の部活動で他校の生徒との関わりを持つ機会があまりないことから、他校の生徒と一緒に活動することでよりよい刺激になると考えていると思われる。

【質問17】（生徒と保護者への質問項目）
仮に、週一回（土日のどちらか一日）、地域でスポーツ活動がおこなわれるとしたら、「不安」な事はありますか？

生徒



保護者



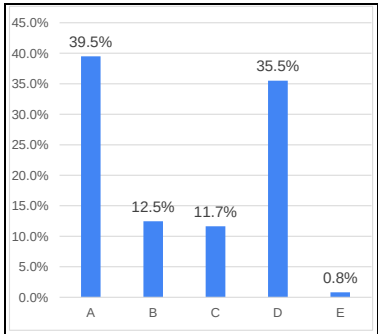
回答項目

A 平日と休日で指導者が変わる場合があること
B 希望する地域クラブ活動があるのか
C 専門の指導者の確保ができるのか
D 休日の選択肢（クラブチーム等）が増えることに悩む
E 金銭面での負担（謝金・会場・道具等）
F 保護者の負担（送迎・配車・当番等）
G 不安なことはない

【結果と考察】
〇生徒は「G 不安なことはない」が37.7%と最も多かったが、自分の希望するクラブの有無や保護者への負担・指導者が変わることに対しての不安もみられる。
保護者は「F 保護者の負担」が28.1%と最も多く、部活動においての保護者の負担と一致している。また、「B 希望する地域クラブの有無」と「C 専門の指導者の確保」についての不安も高い。部活動とは別に「E 金銭面での負担」が新たに発生するのではという声も多かった。

【質問18】（生徒への質問項目）
中学校を「卒業した後」のスポーツ活動についてお聞きします。

生徒



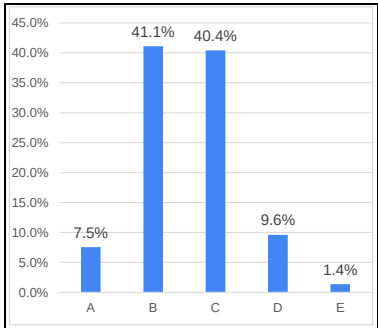
回答項目

A 同じ競技（活動）を続けて行きたい
B 別の競技（活動）をやってみたい
C スポーツ活動は行わない（やめる）
D まだ決めていない
E 無回答

【結果と考察】
〇卒業後も「A 同じ競技を続けたい」と39.5%の生徒が回答しているが、「D まだ決めていない」が35.5%と同程度いる。また、「B 別の競技をやってみたい」と回答している生徒も12.5%いるが、「C スポーツ活動は行わない（やめる）」と回答している生徒も11.7%いることが分かった。

【質問19】（保護者への質問項目）
お願いされたら、地域スポーツ活動に指導者や見守り、サポーターとして関わりたいと思いますか？

保護者



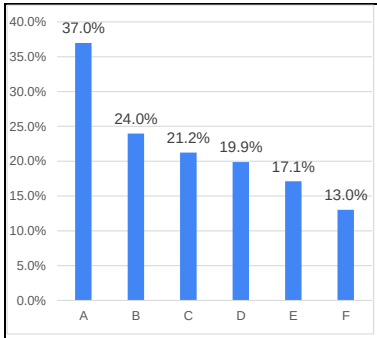
回答項目

A ぜひ、関わりたい
B どちらかといえば、関わりたい
C どちらかといえば、関わりたくない
D 全く、関わりたくない
E 無回答

【結果と考察】
〇「AB 関わりたい」とする回答が48.6%で、50%の保護者が、「CD 関わりたくない」と回答した。

【質問20】（保護者への質問項目）
指導者や見守り、サポーターとして活動に関わる場合、どんな環境が整うことが大切だと思いますか？　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位6項目

保護者



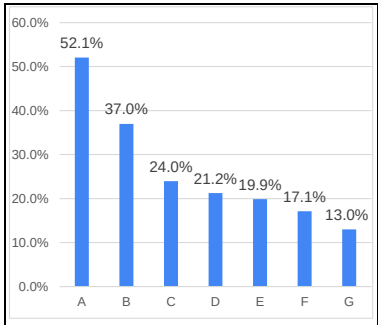
回答項目

A 複数の指導者による当番制など、協力して指導する体制が整っていること
B お子様が活動しているチームで指導できる
C 居住する地域で指導できる
D 適切な報酬が支払われる
E 自分の専門競技（種目）の指導ができる
F 現在、務めている組織が承諾すること

【結果と考察】
〇その活動に関わる場合の環境としては、37%の保護者が「A 協力して指導する体制」と回答していることから、一部の指導者に偏ったり負担がかかることがないような体制作りが大切だといえる。また、「B お子様が活動しているチーム」「D 居住する地域で指導」については、保護者の負担で上がった「送迎・配車・当番等」にもつながる回答ともいえるだろう。

【質問21】（保護者への質問項目）
どんなスポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか。　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

保護者



回答項目

A 専門的で丁寧な指導を受けられる
B 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
C やりたい種目が選択できる
D いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる
E 他校の友達ができる
F 勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
G 複数の活動に参加できる

【結果と考察】
〇保護者の52.1%が「A 専門的で丁寧な指導」と回答している。続いて、37%の保護者が「B 健康状態の配慮」、24%の保護者が「C やりたい種目が選択できる」と回答していることから、保護者としても最適な指導環境と選択肢が多いスポーツ環境を期待しているということが伺える。「A 専門的で丁寧な指導」について多くの回答があるのは、教職員・指導者と同様である。